

身近な数を進んで数える力を育てるために

支援学級(4年)の実践

はじめに

昨年度、ブロックやお金を操作しながら50までの数を学習した。20までの数については、数えたり大小を比較したりすることができるが、20以上の数については理解が不十分である。そこで、今年度、107条図書で「1から100までのえほん」を採択した。コアラの兄弟が海でヨット遊びをするところから始まり、ページをめくる度に登場人物の数が増えていく。Tは絵本を読むのが大好きなので、お話を楽しみながら、100までの数の学習に意欲的に取り組んでほしいと考えた。



1 単元名 『100までの数を数えよう』

2 単元の目標

- 「100までの数絵本」を使って、お話を楽しみながら100までの数を数えることができる。
- 1～20までの数については、1ずつ増えていくことを確かめながら数唱することができる。
- 30～100までの数については、10のまとまりを作り「何十」を数えることができる。

3 指導の実際

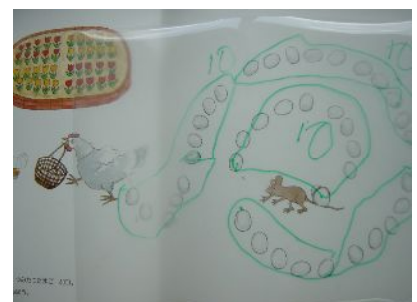
(1) 読む・話す・書く力を育成するために

算数の学習においても、読む・話す・書く力を付けることができるようにしたいと考え、次のような学習活動を継続した。

- ・毎ページに書かれてあるお話を自分の力で読む。
例えば「15」のページでは、「まちあいしつは、けがやびょうきのどうぶつたちでいっぱいです。」という文を、自分の力で文字を追って声に出して読んだ後、教師と一緒にもう一度読む。
- ・挿し絵を見ながら自由に話す。
「ぞうさんは、鼻と耳をけがしてる。パンダは目で、キリンは首。ぶたさんは、お腹が痛いのかなあ。(挿し絵の時計を見て)今1時半だよ。…」
- ・学習の最後に、本時のストーリーをノートにまとめる。
自由にお話したことを、「～が～しました。」という一文に簡単にまとめ板書する。
「にわとりがたまごを40こ、うんできました。」「とんぼが90ぴきいます。コアラに『こっちへおいで。』といいました。」→板書を見ながら正しく視写し、もう一度読み返して間違いがないか確認する。

(2) 数の概念を理解させるために

- ・数を数える学習では、お話に出てくる動物や物の数を、「1・2・3…」と声に出して数えた後、その数をブロックに置き換えてみる。具体的な操作を積み重ね、数とブロックを対応させながら理解することができるようにした。
- ・20以上の数については、数えているうちに分からなくなってしまうので、十のまとまりを作ると便利であることを知らせた。しかし、絵本に直接線をかくと汚くなり繰り返し学習することができなくなるので、透明シートを用意して絵本のページに重ね、マジックで線を引くようにした。「1・2・3…」と10まで数えて○で囲む。「10が○こで何十」と声に出して唱え、ブロックに置き換えて確認した。
- ・最後に今日学習した数について、上記のようにノートにまとめる時間を確保した。



4 成果と課題

- 毎時間、絵本の見開きで2ページずつを取り上げて、数の学習を行った。数が大きくなると数えるのも大変になるが、活動を繰り返すうちに10のまとまりを作ることにも慣れ、マジックで色分けもしながら意欲的に数える様子が見られた。また、ストーリーがどんな展開になるのか、次の学習を心待ちにしている様子も感じられ、楽しく学習を進めることができた。
- 十のまとまりを作って「何十」と表わすことを今回理解できたように思うが、実際に使う場面がなければ、数える必要性を感じないし、すぐに忘れてしまう。生活の中で意図的に数を数える場面を設定し、そのよさを実感できるようにしていかなければならない。
- この「1から100までのえほん」は、5ずつのまとまりも分かるようにイラストが描かれている。数の学習が進んだら、「5・10・15…」という5とびの数え方の学習の際にも活用していきたい。